



# 新聞

JADDO 第14号  
1996年 3月 25日 発行

JADDO  
アジアのこども達を援助する会

事務局：〒895 鹿児島県 川内市 神田町 11-20  
若松記念病院 内

TEL. 0996-20-1402 FAX0996-23-6681

## 第2回視察ツアーの報告会

2月23日 川内市市民会館第1会議室にて

1995年11月の第2回視察ツアーの報告会を行いました。この度のツアーでは視察の他にワークショップ（セミナー）を開きましたのでセミナーの報告を主にいたしました。あわせてラオス、タイの民芸品等を見ていただきました。大勢のご参加をいただきありがとうございました。

セミナーの目的、開催のきっかけ等はじやっど新聞第13号をご覧ください。

当初の予定では子供達に授業をするところをラオスの先生達に参観してもらいながら、説明を加えていくつもりでした。ところが、例えばゲーム開始にあたりゲームの説明を子供にわかってもらうのに難渋したので、限られた時間の中ではできないと判断し先生方に子供として授業を受けてもらうことにしました。

第1日目の午前は教材としてサイコロと数字カードを作成。午後はそれを使ってたし算、ひき算の練習。数字の書き方が日本とは異なり双方が戸惑いました。（国際的には日本の書き方が通じない。）

例えば

となります。

第2日目午前は「お話を聞かせる。」を行ないました。口承の文化が続いている国だけあって、語りがなかなかうまいのに感動しました。せつかくの力を授業でうまく活かしきれていないようです。

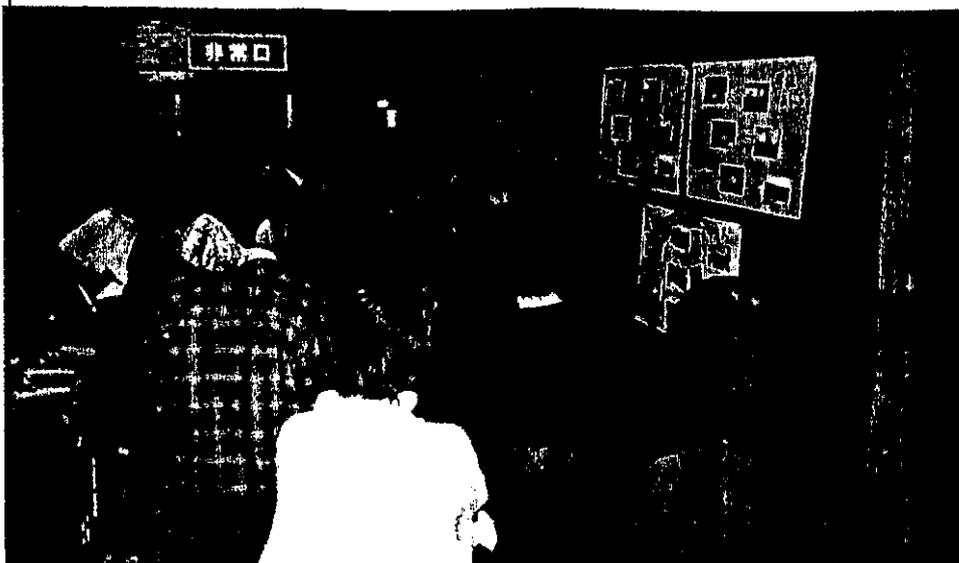


楽しそうに報告する専門家

左：山本恵美子氏

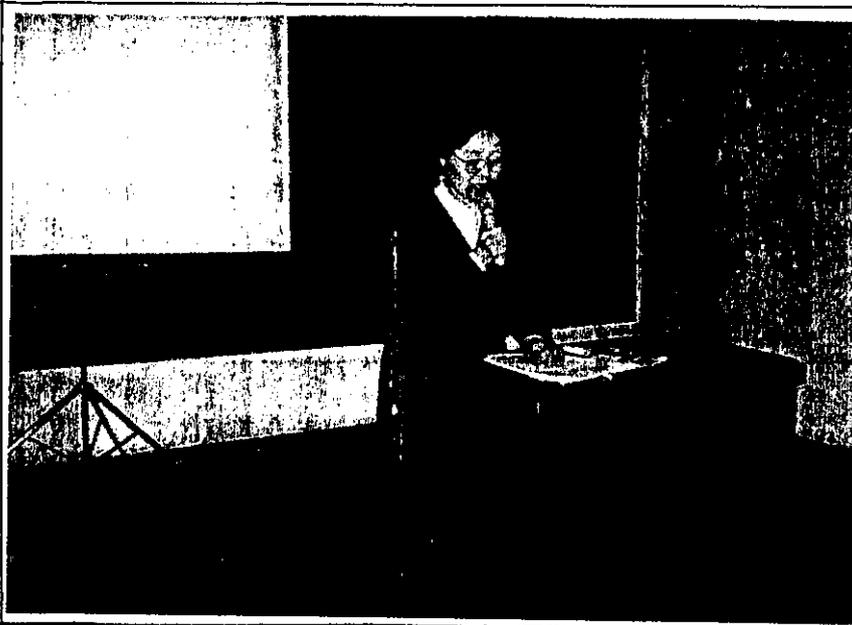
右：田中律子氏

二人とも民族衣装のスカートをはいています。シンと呼ばれるこのスカートは手織りです。縦糸は黒い木綿糸を使い、横糸にきれいな色の絹糸を使うことが多いです。地方により模様異なります。丈は最近、長めが流行しています。



## 写真などを見る会員

ラオスの生活、学校のこども達、そしてセミナーの様子を写真で紹介しました。



## 報告する藤田啓子氏

ラオスのセミナーでは救急時の処置の方法を講義しました。藤田氏はビエンチャン市立セタチラート病院へ1,000ドルを寄付されました。

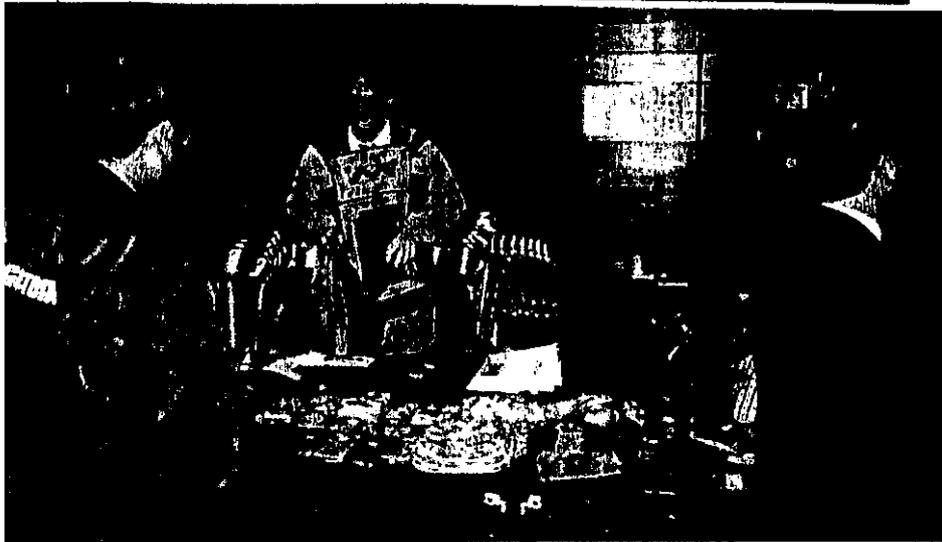
## ラオス、タイの民芸品

モン族の伝統的なだっこ紐を試している会員（久木野氏）

モン族は高地山岳民族の一つで、勇敢果敢な民族として知られています。

ラオスは多民族国家です。  
高地；モン族、ヤオ族など  
中部；カー族、タ・オイ族など  
低地；ラオ族、タイ・ルー族等

全部で50近くの民族で形成されています。民族が違えば言葉も通じません。国はラオス語を公用語にしているため学校ではラオス語で授業をします。が、少数民族の子ども達は家ではラオス語は使いません。



援助前のドンカルム中学校  
村の父母が捻出したお金と労働で柱と床の一部、一部の壁の腰までの煉瓦積みは行なわれていた。  
休憩中の先生たち。（立っている先生は教頭先生でフランス語を教えています。）

第1期工事終了  
天井、柱、職員室の床と壁が完成